

## 支倉常長フェロー報告書

提出日 2008年 12月 25日



申請者	氏名	大槻 三樹
	所属・職	生命科学研究科博士後期課程一年
出張期間	2008年 12月 13日 ~ 12月 19日	
渡航先	アメリカ合衆国・カリフォルニア州・サンフランシスコ	
渡航目的	学会参加・共同研究のための留学・( )	
発表演題名あるいは共同研究課題名	Phosphorylation of Slingshot-1 by Polo-like kinase-1	
得られた成果など	<p>The American Society for Cell Biology 48th Annual Meeting において、「Phosphorylation of Slingshot-1 by Polo-like kinase-1」についてポスター発表をして参りました。ミニシンポジウムでは、期待通り細胞生物学の各分野で最先端を行く研究が発表され、国際レベルの研究を堪能することができました。私が尊敬するアクチン骨格や細胞膜の構造生物学者で来年退職される Ueli Aebi 博士の講演も聴け、発表後直に言葉を交わすことができたことは光栄な出来事でした。また、私はより深く学会に参加したいと考え mentor としてボランティアをして参りました。その際、学会誌作成の裏舞台に立ち会う貴重な体験を得ました。私のポスター発表には、National Cancer Institute で Polo-like kinase-1 を十年以上研究しその道の最先端を行く Kyung S. Lee 博士が訪れ、セッションの時間一杯、実験手法や参考にすべき論文などについて助言して下さいました。Lee 博士のような大先輩との出会いは、今後の研究の糧となっていくことでしょう。また、偶然にも行きの飛行機で隣の席に座った韓国人のポスドクの方は、私と同じ分野の研究を行っており、飛行機の中から若手研究者同士の友好を深めることができました。さらに、学会のビックイベントであるノーベル賞受賞者の講演では、Martin Chalfie 博士と Roger Tsien 博士が、ジョークを交えてノーベル賞までの道のを面白く感動的にお話下さいました。普段、文面で知っていた研究者達と直に会い交流したことで、サイエンスが世界共通の財産であることを実感致しましたし、未発表のデータを交えて知識の限り討論できたことは自分の研究に対する自信にも繋がりました。私の学会参加に助力して下さいました皆様に御礼申し上げます。</p>	

- ※ 帰国後 10 日以内に報告書を提出してください。HP に掲載することがあります。
- ※ 可能であれば顔写真、学会風景写真を添付してください。
- ※ 用紙が不足する場合は、適宜加えてください。